

会 議 記 録	
会議名	第 2 回 （仮称）市民協働推進指針策定委員会
日 時	平成 23 年 9 月 26 日 18 時 0 分 ～ 20 時 15 分
場 所	市役所 2 階 本館会議室
参加者	市 赤羽秘書政策班長、秘書政策班森山主査 策定委員 別紙名簿のとおり
開 会（赤羽秘書政策班長）	
開会及び資料の確認 当初21日に開催予定だったが、台風により延期となった。	
1．協働に関する事例・課題等意見発表（主な意見）	
	・ 毎年河川愛護週間には内川沿いの草刈りを行っているが、初参加の際鎌を持って行ったところ、とても手で刈れる状況になく、以降草刈り機を自分で購入して行っている。参加には自前の機械が必要であり、燃料費等も出して貰えるとは限らないので、綺麗になっている場所もあればそうでない場所もある。活動の時期や必要なもの等の情報を共有し、また皆が同じ方向を向いて参加することが重要である
	が、それがなかなか難しく、市民が参加し易くなるような支援があれば良いのと思う。
・ 分譲地内の公園など、都市公園等以外の公園は市が整備するものではないということなので、自分達の行政区では維持管理を地域で行っている。これらの公園は、分譲業者などが設置し住民に移管されるということで、自分達で管理しなければならないのだが、公共施設ということで、自治公民館の予算で飲み物代等を出している。	
・ 旧長井小を使って障害者サービスを始めたが、学校施設の維持管理やイベントの際など、地域の方たちにお客様として来てもらうのではなく、運営等に参加してもらいたいと考えている。参加者一人ひとりが主役となることが協働だと思う。	
・ 5年前に青少年育成市民会議を立上げ、運営しているが、まずどうやって立ち上げたらよいのかが分からず非常に苦労した。その後未設置の市町には県指導で同協議会が作られたのだが、予め市がすべきこと、市民がすべきことそれぞれに明確なルールがあれば、もっと簡単にできたのではないかなと思う。行政と市民の繋がりが重要と思われる。	
・ ボランティア活動を行っているが、募集をしても一般の人がなかなか集まらなかったり、団体に登録しても、実際の活動には全く出てこないという方もいる。また参加者も、自己満足に陥って本当に有効な活動ができているのか分からない時もある。	
・ 長年月 2 回、班で周辺の清掃を行っている。自分達の住む場所を綺麗にするのは当たり前なので、常にほとんどの家が参加しているが、道具などで支援が受けられればよいのと思うこともある。ボランティアであっても、行政との連携・支援があってもよいと思う。	
資料：協働事例集の説明	

2. ワークショップ

別紙の4班に分かれて「協働とは」をテーマにワークショップを実施した。



所要時間

70分

3. 発表（要旨）

各グループ5～7分を目安に、グループのまとめ（別紙のとおり）を発表した。

○ Dグループ

協働とは何かという結論から言うと、1つは「目的のために行政と市民が補完、協力してそれを実現させること」これが協働である。それから「協働の主体が同じ目線（対等）で動く」こと、それが協働である。

次に協働の領域ということで、「市民が主体の協働」と「行政と市民が一緒に活動する」、「行政が主体の協働」3つの領域があり、それぞれがその領域でやるべきことを果たしながら、一緒になって活動することが協働であろう。



そういった協働を実現するには、我々市民の意識の変革が必要である。市民が市政・行政に関心を持ち、市民一人ひとりが政治をやっているという意識を持つことが大切である。

また行政に希望することとして、矢板市にも多くの才能・技術を持った人達がいるので、これを活用して欲しい。その為に、審議委員を決める際などで、何か役をやっている方を充て職とするのではなく、できる限り公募にするなどで広く一般市民に門戸を開いてほしい。

それから行政は、もっともっと市民に情報を発信し、啓発して欲しい。

行政が市民に情報発信し門戸を開くのであれば、少しずつ市民の意識も変わり、協働を実現することも可能であろう。

○ Cグループ



Cグループは行政との協働は考えず、「協働」という言葉のイメージを話し合った。

協働は絶対に一人ではできず、必ず他者で行うこととなる。その他者は行政であったり、NPOであったり、他のグループであったり、地域内外、年代、様々の他者とのかかわり・連携することが協働である。

これらのかかわりにたとえ行政がいなかったとしても協働はできる。しかし、市が定める指針においては、市のかかわりを規定しなければならない。それがあことで、矢板市の指針となる。協働をより成功させるためにも、行政がかかわったほうが良いと考える。

またそれぞれの連携の際には、市内の様々なスキルを持った人にも関わってもらうことで、より成功に近づけることができると思われる。	
一方で、連携する為には集まる場所、拠点が必要となる。集まることで市民の意識、やる気も湧いてくるので、拠点づくりは重要であるとする。	
その他の要素として、協働の目標の明確化と、情報共有が必要とする。	
○ Aグループ	
協働して、矢板市を良くしていくには何が必要かを挙げ、5つのキーワードにまとめた。	
まず「情報」は、地域で誇れるものを市民が共有することとした。「環境づくり」は市民が活動しやすい環境づくりをすることとしたが、具体的にどうするかは今後考えるべきであろう。	
「組織づくり」として、地域活動を活性化する為に地域独自に組織づくり交流の場を設けると、市民と行政と一緒に行動するための組織づくりが必要とした。	
「人材育成」としては、市を愛するし良い所を見つける人を育成すべきである。また地域内で異世代の交流を深めることも大切だとした。ほかにもたくさん出たが、Aグループは人材育成こそが最も重要であると考えた。	
最後に「人間関係」として、桜梅桃李—それぞれ立場の異なる人が互いの持ち味を尊重しつつ、一つのものを作り上げていく。それが成功への秘訣であると考えた。	
	○ Bグループ
	Bグループは各自協働という言葉から連想したイメージを挙げ、それを関連付けした。
	グループ分けの結果は法との関係はどうなっているのか、行政との関係はどうなのか、進め方はどうしたらいいのか、それから協働を進めるには環境づくりが大切ではないかとまとめた。
	さらには情報の発信、これはただ発信するだけではなく、発信した情報が正しく末端まで届くという意味での発信となる。
これらをまとめた「協働とは」のイメージは、「協働」を円滑に推進するには協力者との連携が大切、協働とは市の方針を市民にどのように働きかけどのように分担させるか、時には自分の生活を犠牲にする場合もある、協働は複数の人員で目標達成に向かう行動などとなった。	
4. その他	
夕方から夜は参加しづらい場合が多いという委員が若干いるので、開催時間を昼夜交互にするかどうか検討したが、日中が都合が悪い委員が多いので原則18時から開催を続けることと決めた。	
今回は10月26日(水)18時から第1委員会室で実施する。	
「より良い協働を進めるためには」をテーマにワークショップを行う。	

協働とは

D 班

行政に希望すること

情報発信

情報を流して
オープンにする

どんどん参加し
てほしい！
というアピール

参加しやすい雰
囲気・環境づく
り

行政に市民が参
加しやすいよう
な工夫が大切

行政は市民に
もっと情報を伝
える

行政の市民に対
する啓発と情報
発信が必要

人材活用

特技を活かして
いく

一般公募制を利用する

頑張る市民を行
政は支援する

委員会・審議会
委員に一般市民
に門戸を広げる

市民をもっと行
政は活用すると
良い

埋もれた人材の
活用

市民の意識の 変革

市政に対し関心
を持ち参加する
という意識が大切

市民も行政の働
きに関心を持って
参加する

協働の実現

協働の領域

市民が主体の
協働

行政と市民が一
緒に活動する

行政が主体の
協働

協働とは？

ともに汗をかい
て何かを作り上
げていく

同じ目的に向
かって協力して
行く

協働の主体が同
じ目線（対等）
で動く

目的実現のため
行政と市民が補
完・協力し実現
する

C グループ

目標

協働するには目指すべき目標がないとダメ

拠点づくり

活動の場が必要

活動する拠点、場所・リーダーが存在することでそこに人が集まり動きが起こる

協働を考えるための参加の場づくり

広義の"居場所"づくり（共通の目的を持った）

情報の共有

情報の共有が必要

協働の必要性を市民が持つこと

市民が主体となって活動する 行政から言われたからでなく自ら積極的に参加する

「協」...協力
「働」...働く
共に協力して活動する

地域のために何ができるか

ボランティア精神がなければ協働はできない

市民の立場からのやる気

皆との連携

協働は一人ではできない 他者との色々な係わり(連携)がなければできない

各団体(婦人会 育成会 老人会)が繋がって地域で活動する

困っていることを解決する為に関係する団体に相談し連携し合う

年代を越えたつながりがある

住んでいる地域が心豊かに過ごすことのできる環境づくり

まち・地域をより良くするためにお隣同士市民同士が協力し合う

人材の育成と活用

人それぞれが持っているスキルの活用が必要(地域の団体も含む)

協働の必要性を感じる人たちを育てる場づくり

ネットワーク化

関係する機関を超えてネットワークを構築する

行政との連携

市民 + 行政という連携

市民が住みやすくなるよう行政と市民の意見交換を行う

行政に対し地域との連携を提言する

行政の係わり方が課題

市民として行政の立場から参加する仕組みづくり

行政とのかかわり

「Aグループ」

「環境づくり」

市民がまちづくりに参画スル

市民が活動しやすい環境づくりをすること

「人材育成」

地域内で異世代の交流を深める

協働にふさわしくない事 他の人を認めない 自分だけを主張する

市を愛する(良い所を見つける)

相手を想う心

人材育成 若い世代へつないでいく

相手の立場を理解する

一方に都合のよいシステムにしない

自助の考えをしっかり持つ

市民が自主的に行動する

協働とは勇気ある生き方 一のことには気にせず自分としての意見を述べて行く

仲間を増やす

市の行事に積極的に参加する

協働

「情報」

地域(市内)で誇れるものを市民が共有すること

協働で取り組んだ内容を評価し 良い事例は公表すること

地域(班等)の情報を共有すること 課題はプライバシーの保護

「組織」

市民と行政の信頼感

子どもを中心とした活動に地域住民が積極的に携わる

行政と協力して行動すると市民だけでは出来ないことも出来る

地域活動を活性化する為に地域独自に組織づくり交流の場を設けること

協働とは手をつなぐ力を合わせる

行政に任せるのではなく市民も一緒に考えて対応する

まちづくりをして行くために基本的な考え方を取りまとめる事 そして市民と行政が一緒に取組む事

市民と行政が一緒に行動するための組織づくり

行政と共に働く

「人間関係」

目標を明確にする

提案型の要求

一つの目標に2人以上で行動すると予想外の効果が出る

立場の異なる人同士で活動すると思わぬ結果が出る

桜梅桃李 それぞれの持ち味を尊重し一つ一つのものを作り上げていく

各種団体と連携する為責任者と中を取り持つ行政の役割を決めること

「桜梅桃李」

おう ばい とう り

B グループ

法との関係

行政の中では「きまり」からはみ出すことがないので相談等してもなかなか解決まで持て行かない

協働指針は他の法令や条例との関係でどういう位置付けになるのか

協働しやすい分野とできない分野がある 法律などで決められている分野はできないと言われているが具体的に何を指しているのか

上意下達のイメージがある

協働への環境づくり

< 協働 >
住みよいまちづくりに取り組み

老後の安心感 各住宅地の年齢が高くなり65～80歳の住宅地が多くなりつつある
ここの住民と行政との間で情報やり取りし今後の対応が必要 買物医者交通

矢板に人を集めるには観光 買物 外食が市外に流出している 行政はどう考え市民はどう対応するか

行政は市民と市民と協働するに当たっての環境づくりをして頂きたい

企業役所の専門家を学校等で活動させる

「協働」を有効に活かすにはプラン・ドゥ・チェック・アクションのサイクルが欠かせない

進め方

協働を進めるに
どういう進め方や手法があるのか

市民がやるべきこと 行政がやるべきこと 市民と行政が「協働」すること 協働の領域を明確にすることが大切

一斉清掃などでも班によっては店の人は常に綺麗にしているから清掃日には参加しない班のまとまりがない 市民全体が参加できるような広報はないのかなと思う

市民に対し協働への意識調査（アンケート）が必要

老人給食「ラフィア」で考え方はそれぞれなので参加したらある程度の所まではやって欲しいし行政の方も今後受給者が増えると思うので施設設備の面で協力して欲しい

情報の発信

行政の情報を市民に徹底するための方策 もっとキメ細かく 現在矢板広報 下野新聞 区内回覧広報車があるが

協働活動の発信元と内容の不明な点が多いのか

行政との関係

総合計画人口を増す
22年から +2600人
どうして行くか市民と行政が一丸となって取組み

総合計画の実行・実施を市民と行政がいかにかわっていくかを詳細に決めて行く

市職員の共同意識を高めて頂くことが必要

「協働」を推進するには市の縦割りをなくしそれに耐えられる組織づくりが欠かせない

矢板市ならではの指針をつくるには困難なところがある

協働とは極端な話になると市が補助金を出し市民に活動してもらうこと

協働とは市は入れないで市民主導で実施すること そこで足りない事物があった時に市を巻き込むようにしていく

「協働」の前提として行政の役割 具体的に行政は何をどこまでやるかが明確であることが必要

活動度合いによるがその活動にはお金がかかるのかからないのかによって支援が変わってくるのではないのか

協働への疑問

市民協働の目的と効果（協働するとどうなるのか）

なぜ今協働が必要なのか

協働により何がどう変わるのか

団体に所属しているとその活動が当たり前の感じで協働の認識が薄い

協働は成果が見えないと駄目なのか

協働とは

「協働」を円滑に推進するには協力者との連携が大切

物事に対して何かに気づくかどうか どうなっているかではな

自主的な参画で行動できる事が協働ではないか

複数の人員で目標達成に向かう行動

時には自分の生活を犠牲にする場合もある

協働とは市の方針を市民にどのように働きかけどのように分擔させるか

地域行事への参加 感謝祭（行政区単位行事）

協働はボランティア精神が必要ではないか

「協働」の課題は帯広市の指針6～8ページにすべて書き尽くされている

策定委員会 ワークショップグループ

グループ	氏名	所属団体等	備考
A	宮崎 常男	矢板市区長会	
	池田 博	矢板市老人クラブ連合会	
	君島 里美	矢板市婦人会	
	星 哲夫	一般公募者	
	斎藤 隆之	市 都市建設課	
B	三好 良重	片岡地区コミュニティ推進協議会	
	飯村 陵子	シルバーサポーター	欠
	池田 ミチエ	老人給食ボランティア	
	海瀬 元之	ふるさと創年大学	
	佐山 公康	一般公募者	
	関谷 一男	市 生活環境課	
C	小口 晋	矢板市自治公民館連絡協議会	欠
	鍛冶 知明	ボランティアネット	
	齋藤 修	泉地区むらづくり推進会議	
	鈴木 久	矢板まちづくり研究所	欠
	櫻井 きの未	一般公募者	
	田城 博子	市 総務課	
D	大柿 弘子	オピニオンリーダー	
	澳原 初男	矢板市子ども会連合会	欠
	小林 勇治	矢板市青少年育成市民会議	
	高野 茂	一般公募者	
	金澤 雅子	市 福祉高齢課	
	高瀬 智明	市 生涯学習課	